

2025年12月28日 降誕節第一主日礼拝説教  
「災いなれば救いもなし」（マタイ2章13～23節）

○マタイ2章13節のみことば

「ヘロデが、この子を探し出して殺そうとしている。」

ユダヤを治めていたヘロデは、幼子の知らせを聞いて恐れを抱き、己の身を守るために、命を奪おうとしたが、神の導きによりヨセフたちは、エジプトへ逃れた。

「ベツレヘムとその周辺にいた二歳以下の男の子を、一人残らず殺させた。」（16節）

幼子との出会いを果たせなかつたヘロデは、怖ろしい手を使って、イエスの命を取ろうとしたが、死に至つたのは、身代わりとして選ばれた男の子たちだった。

☞神は、幼子を災いから救い出したが、ヘロデの悪しき企てを止めはしなかつた。

「ヨセフは起きて、幼子とその母を連れて、イスラエルの地へ帰つて來た。」（21節）

☆男の子たちの命と引き換えに生き延びた幼子が、やがて災いを受ける側となる。

「預言者たちをとおして言われたことが実現するため」（23節）

※災いと救い、怒りと赦しをもつて近づく神の御心を、だれも変えることはできない。ただ十字架を仰いで、神を畏れ、救いに選ばれる者として生き続けよ。

\*聖書翻訳本文は日本聖書協会『聖書 新共同訳』からの引用です。